

今日は黙示録8:1-13から「ラッパのわざわい」と題して2つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 聖徒たちの祈り 1-5

先週、先々週と学んだ7章では、地上の神の民と天上の神の民の姿を見ました。地上では、御使いが神のしもべたちの額に神の印を押してしまうまで、神の最終的さばきは行われません。地上では世の終わりまで福音が宣べ伝えられ、信じる人たちが起こされるのです。そのことを覚えて、どんな苦難の時代が来ようとも、教会は福音宣教に励まなければなりません。一方、天上の神の民は、神と子羊イエスを賛美し、礼拝をささげ、新天新地の救いの完成の祝福にあずかっていました。

終末が近づくと大患難時代と呼ばれる困難な時代がやって来ます。それは巻物の7つの封印が解かれることにより現れ、さらに今日から見る7つのラッパのわざわいと次の7つの鉢のわざわいによって現れます。そのような患難を通して、神の救いの計画は完成し、新天新地の祝福にあずかる希望があることを黙示録は教えています。私たちは7章で教えられる地上での福音宣教の使命と新天新地の救いの完成の希望をしっかりと心に留めて、8章から現れるわざわいの意味を理解することが大切です。では8章を見ていきましょう。

【1 子羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ほどの静けさがあつた。】6章では、父なる神から巻物を受け取った子羊イエスは7つの封印のうち6つを開きました。第1から第4の封印を開くと4頭の馬が現れ、災いをもたらします。第5の封印を開くと殉教者たちの叫びが聞かれます。第6の封印を開くとイエスの再臨と最後の審判が現れます。そして今日の8章で子羊イエスは第7の封印を開きました。すると天に半時間ほどの静けさがありました。これから起こるわざわいの厳粛さを覚えて、天での賛美が止み、静かになったのです。それは嵐の前の静けさでした。

【2 それから私は、神の御前に立っている七人の御使いたちを見た。彼らに七つのラッパが与えられた。】第7の封印が開かれると、7人の御使いに7つのラッパが与えられました。いよいよ7つのラッパによる災いが始まります。黙示録の構造は巻物の第7の封印が開かれると、7つのラッパのわざわいが起こり、その後7つの鉢のわざわいが起こります。7つの封印と7つのラッパと7つの鉢のわざわいは、時間的に順番に起こるのではなく、並列的に重なりながら起こります。しかも災いの規模は拡大し、その厳しさも増していきます。また最初の5つの封印、6つのラッパ、6つの鉢のわざわいは警告的審判です。それに対し、第6の封印、第7のラッパ、第7の鉢は最後の審判です。そのような構造を覚えておくと、理解が深まります。

3-4 【3 また、別の御使いが来て、金の香炉を持って祭壇のそばに立った。すると、たくさんの香が彼に与えられた。すべての聖徒たちの祈りに添えて、御座の前にある金の祭壇の上で献げるためであった。4 香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。】もう一人の御使いが金の香炉を持ち、祭壇のそばに立ちました。彼にはたくさんの香が与えられました。香はすべての聖徒たちの祈りと共に献げる神への献げ物でした。御使いが献げた香の煙は、聖徒たちの祈りと共に神の御前に立ち上りました。

【5 それから御使いは、その香炉を取り、それを祭壇の火で満たしてから地に投げつけた。すると、雷鳴と声がとどろき、稲妻がひらめき、地震が起こった。】御使いは聖徒たちの祈りと共に香をささげ終えると、その香炉を取り、祭壇の火で満たしてから地に投げつけました。すると雷鳴と声、稲妻と地震が起こりました。雷鳴、声、稲妻、地震は神の臨在を表しています。

第1の点では、特に香と共にささげられた聖徒たちの祈りを覚えます。すべての聖徒たちの祈りが香の煙と共に神の御前に立ち上りました。このことは世の終わりまで、クリスチャンは神に祈り続けており、さらに神はご自分の聖徒たちの祈りを絶えず聞いておられることを教えています。聖書は「絶えず祈りなさい」また「あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい」と教えています。その通り、聖徒たちは世の終わりまで祈りをささげ、神はその祈りを聞いてくださり、神の御計画を確実に進めておられるのです。

私たちは気を付けないと、祈りを軽視してしまう誘惑に陥ります。一応祈るけれども、短い祈りで終え、あとは自分の力と考えで成し遂げようとする誘惑が絶えずあります。しかしそれでいいではありません。世の終わりが今まで以上に近づきつつある今日、私たちはもっと祈る必要があります。家族や友人の救いのために、地域の人々の救いのためにとりなし祈ることがもっと必要です。この地に神のみこころになるようにもっと祈る必要があります。試練と苦難の中にある兄弟姉妹や人々のために祈らなければなりません。神は私たちの祈りを聞いてくださり、神の計画を成し遂げてくださいます。私たちもすべての聖徒たちの祈りに心を合わせてさらに祈りましょう。

2. ラッパのわざわい 6-13

【6 また、七つのラッパを持った七人の御使いたちは、ラッパを吹く用意をした。】7 人の御使いたちは、ラッパを吹く用意をしました。8 章では 4 つのラッパが吹かれ、4 つのわざわいが起こります。これらのわざわいは出エジプトの際に起きたわざわいに似ています。

【7 第一の御使いがラッパを吹いた。すると、血の混じった雹と火が現れて、地に投げ込まれた。そして地の三分の一が焼かれ、木々の三分の一も焼かれ、すべての青草も焼かれてしまった。】第 1 のわざわいは地上の災いです。血の混じった雹と火が地に投げ込まれました。すると地の三分の一、木々の三分の一、すべての青草が焼かれました。これは出エジプトの 7 番目の雹の災いに似ています。雹が降り、落雷によって地の三分の一が焼ける災いが起こりました。

8-9 【8 第二の御使いがラッパを吹いた。すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血になった。9 また、海の中にいる被造物で、いのちのあるものの三分の一が死に、船の三分の一が壊された。】第 2 の災いは、海の災いです。火の燃えている大きな山とは火山のことでしょうか。その山が海に投げ込まれると海の三分の一が血になりました。その結果、海の生き物の三分の一が死に、さらに船の三分の一が壊されました。これは出エジプトの一番目のナイル川が血になったことに似ています。

10-11 【10 第三の御使いがラッパを吹いた。すると、天から、たいまつのように燃えている大きな星が落ちて来て、川の三分の一とその水源の上に落ちた。11 この星の名は「苦よもぎ」と呼ばれ、水の三分の一は苦よもぎのようになった。水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。】第 3 の災いは川の水の災いです。これも出エジプトの一番目のナイル川が血になった結果、ナイル川の水が飲めなくなった出来事に似ています。天から松明のように燃えている大きな星が落ちてきました。小惑星が地球に衝突したのでしょうか。その結果、川の水三分の一が苦よもぎのようになり、飲めなくなりました。その水を飲んだ多くの人が死にました。

【12 第四の御使いがラッパを吹いた。すると太陽の三分の一と、月の三分の一、また星の三分の一が打たれたので、それらの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、夜も同じようになった。】第 4 の災いは天体の災いです。これは出エジプトの 9 番目の闇の災いに似ています。太陽、月、星の三分の一が光を失い、昼も夜も暗くなりました。

【13 また私は見た。そして、一羽の鷲が中天を飛びながら、大声でこう言うのを聞いた。「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る。地上に住む者たちに。三人の御使いが吹こうとしている残りのラッパの音によって。】4 つのラッパによる 4 つの災いが終わると一羽の鷲が中天、天の真ん中を飛びながら大声で言いました。「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る。」これはこの後に起こる 3 つの災いを指しています。「地に住む者たち」とは神の印を額に付けていない人たち、すなわち神の民以外の人たちのことです。来週見る第 5 の災いは神の印を持たない人たちだけに起こります。けれども、それ以外の災いは、信者未信者共に経験することでしょう。さらにクリスチャンには迫害もあります。けれども神はご自分の民のたましいをどんな災いからも守ってくださり、死の瞬間に天に引き上げてくださるのです。

今までの 4 つのわざわいは、三分の一が災いの影響を受けますが、残りの三分の二はまだ影響を受けずにいます。けれどもこの時点で、全世界が災いの影響を深刻に受けることは想像に難くありません。食料と水が不足します。三分の一の船が使えなくなると世界の物流に大きな影響を及ぼします。太陽の光が三分の一になると、地球が暗くなるだけでなく寒くなり、人間だけでなくすべての動植物に悪影響を及ぼします。しかしこれらの災いは最後の審判前の警告的審判、警告的なさばきです。このような災いを通して、神はすべての人に最終的な審きにあうことがないように警告しておられるのです。

私たちににとって大切なことは、この神の警告を真摯に受け止め、神の前に悔い改めてイエスを救い主と信じることです。それは、私たちが実際に災いを経験する時まで待つのではなく、今みことばを聞いて、悔い改めと信仰を持つことが大切です。さらにクリスチャンは、困難な中にある人たちに助けの手を差し伸べつつ、イエスの福音を伝え続けることです。神は大患難時代と呼ばれる苦難の時にも、イエスを信じる者の額に神の印を押してください。その額に押される神の印は、私たちの心に与えられる聖霊なる神を象徴しています。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。

「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る。」この鷲が大声で言う警告は、裏を返せば「主イエスを信じなさい」という神の招きでもあるのです。先に救われた私たちは、どんな患難の中にも神の守りがあることを覚えながら、まだイエスの救いを知らない人たちに、鷲に代わって「主イエスを信じなさい。そうすればあなたも、あなたの家族も救われます」という神の救いの招きを宣べ伝えていきましょう。そして、人々のために熱心にとりなし祈る者となりましょう。